

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	高齢者と若者の交流を増やす	八戸市
アイデア名 (注2) (公開)	八戸古今写真 (みんな仲よし♪八戸市民)		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	ノーピクチャー・ノーライフ		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	5名		
代表者情報	氏名 (公開)	金澤 花奈	
メンバー情報		山田真華、平脇雅蓮、堺田かおり、馬場美羽	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

核家族化によって高齢者と若者とのコミュニケーションの場が減少しています。そこで、八戸市中心街や公共施設を利用して高齢者とのコミュニケーションの場を設ける機会を作り、中心街の回遊性の向上を図りたいと考えました。

<解決アイデアの内容>

昔の写真を用いて高齢者から当時の様子や思い出について話をしてもらうことで 若者との交流の場を作れると思います。

そのために、私たちはマチニワ(\*1)の大型ビジョンビックスクリーンに目を付け、課題研究で取り組んでいる「八戸古今写真」(\*2)というアプリと融合させようと考えました。

交流方法

- ・アプリの写真(場面紹介付き)を大型ビジョンビックスクリーンに投影
- ・アプリを使い写真を見て思いで語る
- ・撮影場所までの移動時や撮影時に話を聞ける

\*1 マチニワ

八戸市中心街にある公共施設。光・緑・水などの自然を感じられる透明感あふれる空間です。市民の新しい活動・交流の場として利用されています。



\*2 八戸古今写真

八戸の今と昔の写真が比較できるアプリです。高齢者から昔の写真を提供してもらい、実際に一緒にその場所まで

行って撮影をしています。



画像提供：八戸市博物館

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください

い。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

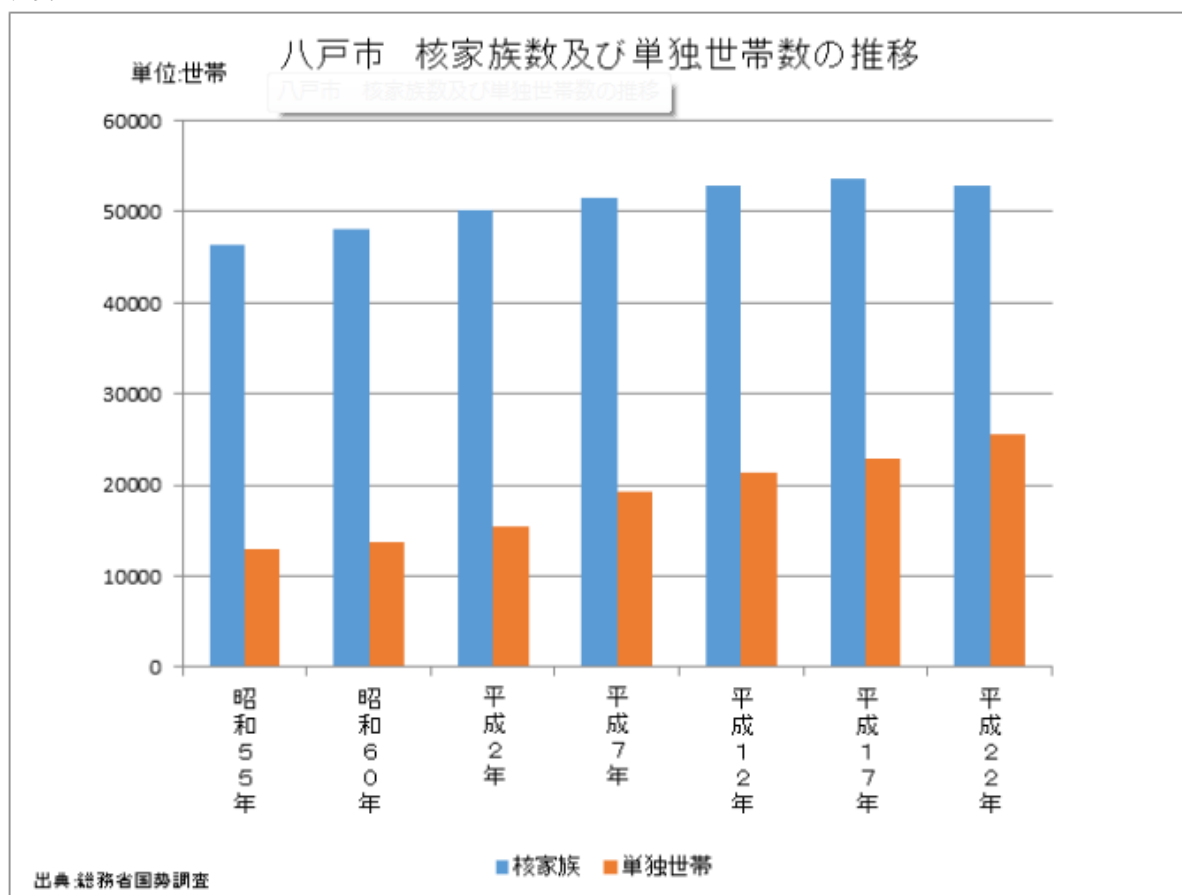
八戸市は人口減少という問題を抱えています。さらに核家族化が進んできています。グラフ1は核家族数及び単独世帯数の推移を表しています。この資料を見て分かるように核家族数と単独世帯数は年々増加しています。

核家族化が進んでいるということは、まず、孫世代と祖父母世代の関わりが減っていることに繋がっているのではないかと考えました。実際、私たちもお盆やお正月などの特別な行事でしか会う機会がありません。

そして、60歳以上の高齢者の方の会話の頻度は2～3日に1回がほとんどです。これは電話やEメールなど間接的な会話も含まれたデータなので直接的な会話となれば頻度はさらに減っていると思います。(グラフ2)

以上の点から私たちは、高齢者と若者の交流を深め地域を活性化させるために(1)アイデアの内容を実現させようと考えました。

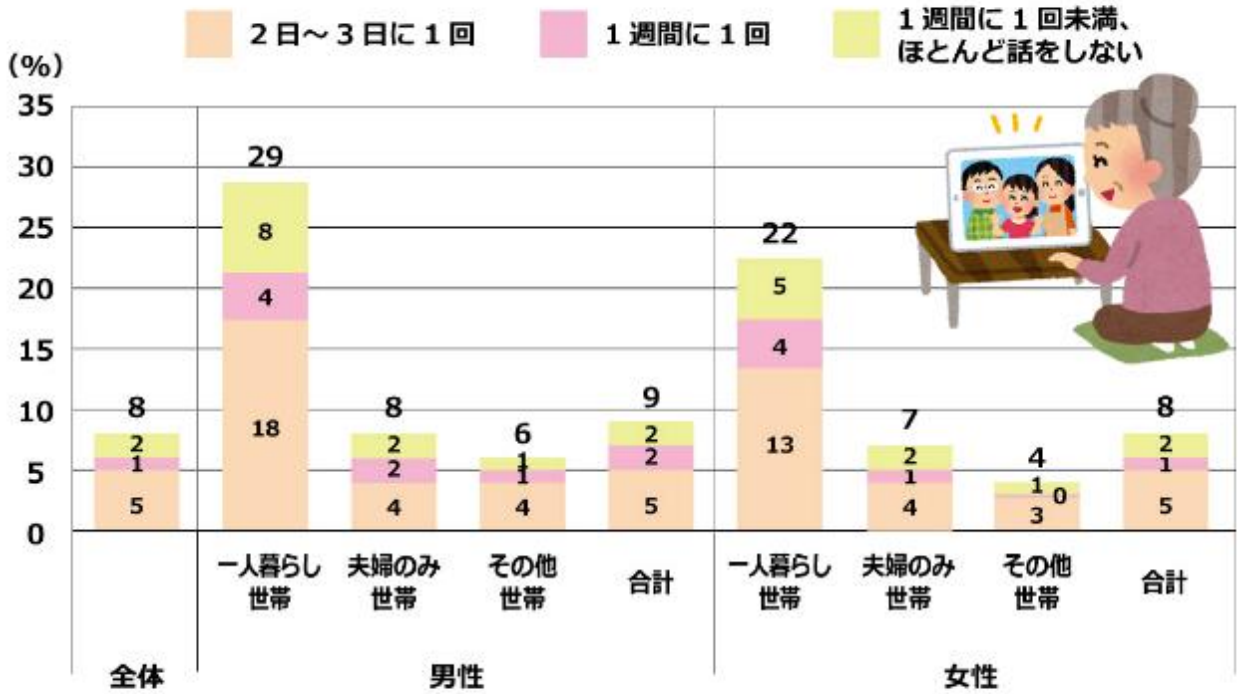
グラフ1



参照元:「青森ポテンシャルビュー」

グラフ2

### 会話の頻度（電話やEメールを含む）



資料:内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査（平成23年）  
 (注1) 対象は、全国60歳以上の男女 (注2) 上記以外の回答は「毎日」または「わからない」

参照元：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査（平成23年）」

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

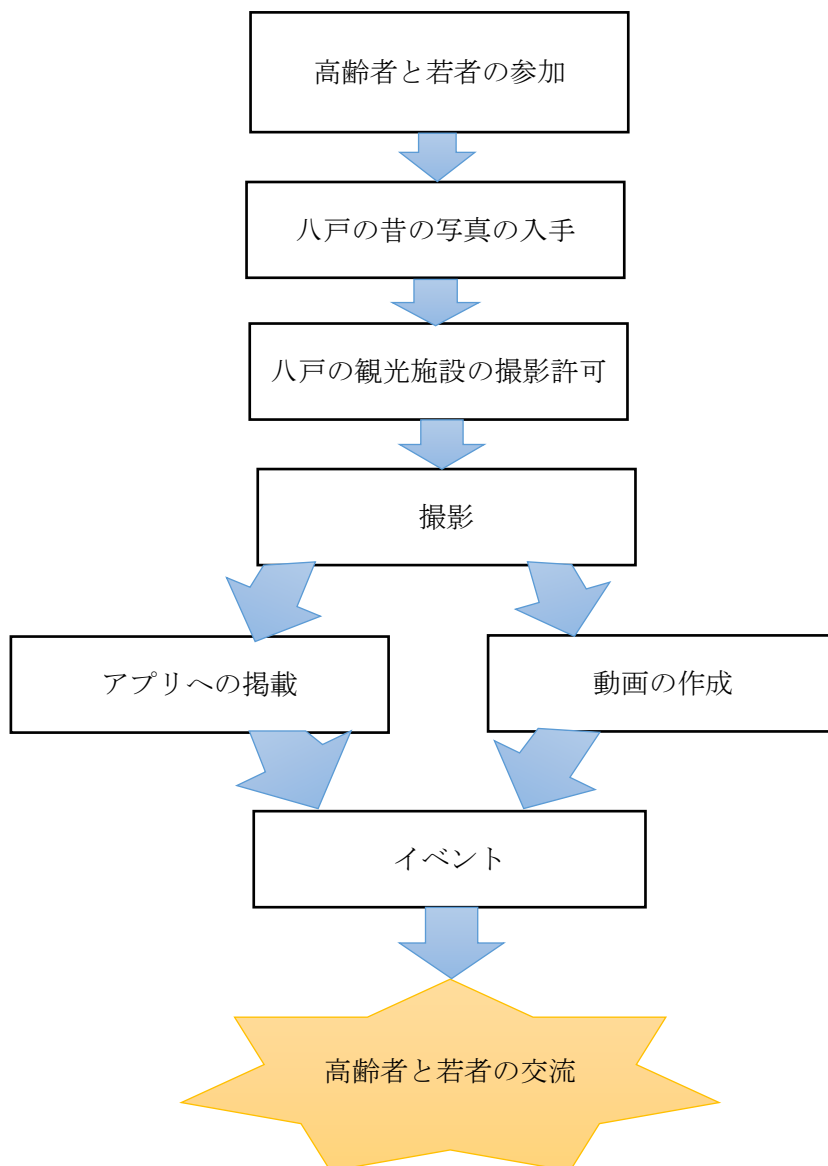
アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の**大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその**解決策等**、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

#### ・実現のために

アイデアの実現のためには、高齢者と若者の参加、高齢者からの写真の提供、八戸の観光施設の撮影許可が必要になります。撮影をするにあたって許可が必要になります。そこで、撮影させていただき施設への許可を早めに取り、撮影させていただきます。そうすることによって、早く SNS へ載せることができ、掲載期間が長くなるためたくさんの人にアプリを見てもらえると思います。

アプリを作成したら、八戸七夕祭りや八戸三社大祭などの市内のイベント、ラピアなどの大型施設、老人ホームなどでこのアプリについてのアンケートを行います。

アプリと同時進行でアプリに掲載した写真を使いマチニワの大型ビジョンビックスクリーンに流す動画も作成していきます。



・イベントへの参加

既に、11月3日に行われた「八戸古今アルバム」に実際に参加しました。昔の写真と見比べて現在の風景を撮ることは、とても大変でした。

しかし、昔の写真を見て「昔はこうだった」「ここはデートの待ち合わせ場所だったんだ」など、八戸の昔を知る方々の話を聞くことはとても楽しかったです。そして、昔のことを話して下さった皆さんもとても楽しそうでした。

今となっては忘れ去られてしまった八戸の昔の建物や風景の写真を使うことで、当時のことを思い出すことができます。私たちがその機会を作ることで、若者と昔をよく知る高齢者との交流の場ができると思います。

